

シンガポール日本人学校小学部チャンギ校における特色ある学校経営

—「保護者参画の教育活動」と「自然に触れられる学校づくり」—

前シンガポール日本人学校小学部チャンギ校 校長
大阪府守口市立第四中学校 校長 吉 本 卓

キーワード：学校改善，保護者参画，学校支援ボランティア，自然

1. はじめに

チャンギ校校長として4年間勤務する機会を得た。1年目は「会話」をキーワードに多くの方々からの「気づきの声」を参考にした学校改善を進めた。2年目からはキーワードに「参画」を加え、保護者ボランティアを積極的に活用し、保護者と一体となった学校経営を展開した。

また、『すべては子どもたちのために』を合言葉に、「自然に触れられる学校づくり」を目指し、保護者と共に学校改善を進めていった。ここに、その概略を紹介したい。

2. チャンギ校

チャンギ校は、平成7年（1995年）に落成し、平成10年（1998年）4月にシンガポール日本人学校小学部の一校としてチャンギ空港近くに開校された。平成23年度（2011年度）は、児童数610名、日本人・外国人併せて58名の教員、そして児童の安全と教育活動を支える事務職員・警備員・技術員等のローカルスタッフ23名を揃えて14年目をスタートし、年度末には、児童数670名になった。

学校教育目標を『確かな学びと国際感覚豊かな子どもの育成』とし、基礎基本の徹底を図ると共に、シンガポールの特色を生かした国際理解教育を深め、豊かな人間性や社会性を育み、自ら学んで主体的に判断できる力の育成に力を入れた。

新学習指導要領にそった教育課程を編成し、シンガポールにあった教科指導の充実を目指し、「より効果的な指導方法の改善」に力を入れた。英語教育では、イングリッシュスタッフによる習熟度別13クラスの英会話指導と日本人教員による習熟度別6段階の文法指導など、「より個に応じた学習」を推進し、発音指導（フォニックス）の定着にも力を入れた。イマージョン教育の充実にも力を入れ、6名のイングリッシュスタッフにより音楽と水泳の授業を英語で進めた。

国際理解教育では英語活動を主体とし、現地校との学校交流を深めており、児童にとって生きた英語活動を実践した。また、ICT教育や特別支援教育の研究にも力を入れた。

特に、特別支援教育では「子どもの状況に応じた特別支援教育」を3教室で展開し、一人ひとりの児童に応じた「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、支援体制を充実させた。

3. 特色ある学校経営

(1) 保護者参画の教育活動

学校経営の柱に『保護者と一体となった教育活動』を掲げ、保護者が学校経営に参画できる体制づくりに力を入れた。具体的には、年度当初に「学校支援ボランティア」の募集を行い、保護者が教育活動に自由に参加できるようにした。結果として、学校（教職員）と保護者の垣根は低くなり、信頼関係が深まると共に、「保護者の声」を大切にされた学校改善を充実させることができた。

平成23年度は登録者数が300名を超え、学習面の充実だけでなく、クラブ活動での技術指導や校外学習での安全

確保、校内環境整備など、学校経営を幅広く支える活動になっている。

【平成23年度の学校支援ボランティア登録者数】

NO	ボランティア名	人数	活動内容
1	図書ボランティア	54人	図書室の環境整備や読み聞かせなど
2	家庭科調理実習ボランティア	77人	調理実習補助
3	家庭科ミシン実習ボランティア	31人	ミシン実習補助
4	花いっぱいボランティア	21人	植物や花壇の整備など
5	通訳・翻訳ボランティア	22人	校外学習や学校交流の通訳や現地教科書の翻訳
6	クラブ活動ボランティア	13人	クラブ活動のお手伝い
7	水族館ボランティア	5人	チャンギ水族館の整備と充実
8	校内環境ボランティア	24人	校内環境整備や民族資料室の創設など
9	パソコンボランティア	26人	パソコン使用授業の指導補助や基本操作の支援
10	書道ボランティア	14人	毛筆指導、書き初め指導など
11	音楽ボランティア	1人	音楽指導の補助
12	他学年校外学習引率ボランティア	15人	子どもたちの学年外での校外学習の引率補助
計		303人	

《学校支援ボランティアの活動例》

① 校内環境ボランティア

ボランティア活動の中で特筆すべきは、校内環境ボランティアである。保護者がアイデアを出し合い、学校改善を推進して頂いた。『保護者と共により良い学校づくり』を行う上で、核になるボランティア活動と考えている。具体的な取組みは次の通りである。

- ・「野鳥を呼ぼう」を合言葉に、バードパークへの給餌や噴水を設置して頂いた。
- ・「保健室の改善」として、ソファカバーの設置や関心を高める保健資料を掲示して頂いた。
- ・児童アンケートをとり、児童の素朴な意見を大切にされた校内環境整備に取り組んで頂いた。

「他学年とのランチタイム交流」の実施、「自由に使えるパソコン」の設置、「トイレ環境」の改善、「新しい遊具(うんてい)」の設置など、多くの改善に取り組んで頂いた。

- ・「民族資料室」を創設し、日本とシンガポールとを対比する歳時記や行事を説明する小物、日本とシンガポールの近代年表などを作って頂いた。また、中国系、マレー系、インド系の衣装を展示し、衣装の名前や各民族の言葉での挨拶なども紹介頂いた。

② 花いっぱいボランティア

『熱帯の花木で溢れる、色鮮やかなチャンギ校』という趣旨で活動され、2週間に一度の割合で、草取り・剪定・水やりなどのガーデニングをして頂いた。また、活動のたびに実った果樹をエントランスホールに展示し、児童に熱帯の果実を紹介して頂いた。児童は触ったり、においをかいだりして、楽しんだ。



【ボランティア活動の様子】

③ 家庭科ミシン実習ボランティア

ミシン学習では、班に1名のボランティアの方がついて、ミシンの使い方を丁寧に教えて頂いた。児童は、不安を抱くことなくスムーズにミシン学習をすることができた。児童は、ミシン操作が理解できたところで、お弁当包みやコースター、エプロン等を製作した。

お陰様で、時間内に素敵な作品を多く製作することができ、作る喜びを楽しんでいた。

(2) 自然に触れられる学校づくり

都市化が進むシンガポールでは、熱帯地方に位置しながらも、子どもたちが国内で自然に触れられる機会が少なくなっている。そのような中、『自然に触れられるチャンギ校』をテーマとし、「児童の関心を高める環境づくり」の学校改善を図った。

① 熱帯蝶の観察場所設置《バタフライガーデン》《バタフライハウス》

シンガポールでは、デング熱やマラリアの原因となる蚊を駆除するために、頻繁に殺虫剤の散布が行われている。この散布の影響からか、校内で蝶の観察を行うことは難しく、蝶の好む食草を植樹することにした。そこで、セントーサのバタフライパークの学芸員を招聘し、平成20年度に、教員と児童で「バタフライガーデン」を設置した。今では食草も大きく育ち、カバマダラやライムバタフライなど、10種の蝶が観察できる庭になった。

平成23年度には、卵や蛹から観察できる飼育小屋の「バタフライハウス」を設置した。バタフライハウスは、飼育小屋の屋根を半分ネットにし、日当たりと雨水が降り注ぐように改築し、バタフライガーデンに多く飛来するカバマダラの食草クラウンフラワーやブラッドフラワー等に加え、ライムバタフライの食草ライム、キチョウの食草ヨウシュコバンノキを中心に、三友花など成虫が好んで吸蜜する植物を植えている。

バタフライガーデンで捕獲した幼虫をバタフライハウスで飼育し、さなぎから羽化し、飛び立っていく姿を感動的に見送る児童の様子が見られるようになった。

② 水生生物の観察《チャンギ水族館》

シンガポールの疎水などに住む水生生物を観察できるように、平成20年度に12個の水槽を設置し、「チャンギ水族館」を設置した。

平成23年度には、「水族館ボランティア」の協力で大きな水槽を設置した。飼育委員会の児童は、チャンギ空港の疎水に魚を捕り、「魚紹介カード」を作製して「チャンギ水族館」をより充実させた。今では、水槽の周りに多くの児童が集まり、楽しそうに会話をしながら魚の様子を観察している。



【委員会児童の活動】

③ 野鳥の観察《チャンギバードパーク》

本校にも多くの野鳥が飛んでくるが、鳥の名前を知る児童も少なかった。

そこで、「イエローフレーム」が大きくそびえる中庭を「バードパーク」として、野鳥が集まる庭になるように整備した。

巣箱や給餌皿を取り付け、水浴びできる噴水を2つ設置した。当初は警戒心からなかなか鳥が集まらなかったが、5・6種類の鳥が餌をついばみ、水浴びをするようになった。鮮やかな黄色のウグイス科の鳥やハチドリ仲間、オウムや啄木鳥なども飛来するようになり、児童の関心を集めている。

④ 熱帯植物への関心《コインフラワーガーデン》

シンガポールの6枚のコインの裏面には植物がデザインされている。そのデザインされている草花を知ってもらうために「コインフラワーガーデン」を保護者ボランティアとともに設置した。

1¢のヴァンダ・ミス・ジョアキム, 5¢のモンステラ, 10¢のスタージャスミン, 20¢のパウダー・パフ・プラント, 50¢のイエローアラマンダ, 1\$のペリウインクルなど, それぞれの花が咲くと, 児童が興味深く観察する姿が見られた。シンガポール国花の「ヴァンダ・ミス・ジョアキム」は, ボランティアの手厚いお世話により2年越しで花を咲かせることができた。

⑤ 熱帯植物への関心《ハーブ園》

「花いっぱいボランティア」の方々に素敵なおハーブ園を作って頂いた。中央には大きなポットをあしらい, ペパーミント, バジル, ローズマリーやレモングラスなどを植えて頂いた。とてもいい香りが辺り一面にひろがり, 癒しの空間となっている。

⑥ 熱帯植物への関心《チャンギオーチャード》

シンガポールでは多くのフルーツを目にするが, 実際に木になっている実を見る機会はあまりない。そこで, シンガポールの代表的な果樹を植樹して「チャンギオーチャード(果樹園)」を作った。この設置もボランティアの方々のご協力を頂いた。

ジャックフルーツ・パパイヤ・スターフルーツ・マンゴー・パッションフルーツ・ライム・レモン・ロンガンなど計20種類以上の果樹を植樹し, 児童の関心も高まった。これらの果樹は, 「バタフライガーデン」の食草となったり「バードパーク」の鳥を呼び寄せたりしている。

4. 最後に

派遣教員数が, 年々, 削減されていく中, 教育活動に関わる人材の確保は, 各日本人学校の大きな課題になっている。「現地採用教員の採用のあり方」も検討しなければならないが, より質の高い教育活動を実践していく上で, 『保護者ボランティアによる学校支援』は欠かせないものと考えている。

また, 保護者が教育活動に参画することは, 学校(教職員)と保護者との連帯感を高め, 本音で話し合える信頼関係を構築でき, 高い教育力を持つ保護者との連携は学校経営上, 非常に効果的である。

保護者ボランティアの募集は, 教職員が本当に必要とする支援内容を把握した上で行うと, 単年度で終わることなく, 継続的な学校支援活動となり, 教育効果はより大きくなる。

チャンギ校での実践例が, 各日本人学校におけるボランティア支援活動の参考になれば幸甚である。